



太良町立多良小学校 学校便り 第 35 号

ゆたたり

学校教育目標 「元気いっぱい 笑顔いっぱい とともに学び合う多良っ子の育成」

令和 4 年 2 月 3 日発行 文責 校長 副島 和久

春は名のみの風の寒さや 「早春賦」(吉丸一昌作詞)より

2月になりました。今日は節分、明日2月4日は立春です。暦の上では春となりますが、まだまだ寒い日が続きます。ちょうどこの時期の三寒四温(※)の様子を歌った歌に「早春賦」という歌があります。「春は名のみの風の寒さや 谷の鶯 歌は思えど 時にあらずと声を立てず」「氷解け去り 葦は角ぐむ さては時ぞと 思うあやにく 今日も昨日も雪の空」といった感じで、春になったかと思えば、また冬に舞い戻り…といったようなことを繰り返しながらも、少しずつ着実に春に近付いているといったようなことを歌った歌です。

この新型コロナウイルス感染の状況もまだまだ先が見えない状況が続いていますが、いずれ必ず落ち着く日がやってきてくれることを信じながら、毎日を頑張っていきたいと思います。

※三寒四温… 冬から春にかけての天候で、寒い日が三日続いた後には、四日ほど暖かい日が続き、それを繰り返しながら少しずつ春に近付いていくということです。春が近付いてきているという意味でも使うことがあります。



学校 HP もご覧ください



初任者研修 最後の研究授業を行いました！

新規採用の岩永先生、とても頑張っています！



4年2組学級担任の岩永 美幸 先生は、今年度の新規採用者として多良小学校で4月から頑張ってきました。何事にもとても前向きに取り組むことができる、笑顔がすてきな先生です。子どもたちにしっかりと向き合い、子どもたちのことをいつも考えながら、日々頑張ってきました。2月2日(水)の2時間目に、今年度最後の初任者研修の研究授業を行いました。国語の学習で「日本語の数え方について考えよう」という単元でした。筆者の考えについて、子どもたちが自分の考えをまとめ、友達とお互いに交流する活動を通して、さらに考えを深める授業でした。4年2組の子どもたちも生き生きと学習に取り組んでおり、素晴らしい授業でした。



マラソン大会に向けて！

マラソンタイムを頑張っています！

いよいよ、明日(2/4)はマラソン大会です。子どもたちは先週から毎日の昼休みにマラソンタイムに取り組んでいます。また、体育の時間も頑張っています。明日はマラソン大会です。②時間目は1,2年、③時間目は3,4年、④時間目は5,6年生が頑張ります。

今回は校外には出ないで、運動場の周回で行います。ぜひ、ご家庭でも子どもたちへの励ましをお願いします。



今、学校でとても心配をしていることがあります。それは、ゲームです。多良小学校だけのことではなく、全体的、全国的にもとても心配なことなのですが、子どもたちの話を聞いていて、多良小学校の子どもたちは大丈夫なのだろうか？ と心配に思うことがあります。

皆様のご家庭では子どもさんの状況を把握されていますでしょうか。大人が「知らなかった…」では済まされないようなことも起きていますので、ここで考えいただくために、この記事を書きました。保護者の皆様におかれましては、様々にお考えがあられることと思いますが、まずはお読みください。

ゲーム依存症にならないために・・・

2019年に、世界保健機関(WHO)が「ゲーム障害」を新たな国際疾病の分類として認定してから、3年ほどが経ちました。ここでいう「ゲーム障害」とは、例えば、ゲームをする時間を自分でコントロールできない、日常生活の活動や日常生活での関心事などより、ゲームを優先してしまうといったような症状が1年以上続くことを指すそうです。「ゲーム障害」の症状が重い場合は1年を経過していなくても該当するそうです。子どもたちが夢中になっているゲームは、昔のゲームとは全く異なり、子どもたちが依存症に陥ってしまうような要素やとても心配な要素が数多くあります。



- ① ゲームに終わりがなく、楽しい要素がたくさん盛り込まれているので、やめられなくなる。
- ② オンラインゲームの場合は、ネットの向こう側にいる人との競争意識や仲間意識が生まれるため、自分で自分をコントロールできなくなってしまう。
- ③ ゲームの中ではあるけれども、例えば、人を殺すような行為を繰り返したりすることで、暴力的な行為や非人道的な行為を行うことに対する感覚が麻痺してしまう。

さて、多良小学校の子どもたちのご家庭での状況はいかがでしょうか。そもそも、そのようなゲームをする機会がないお子さんは素晴らしいと思います。ゲームそのものを全否定しているわけではありませんが、家庭でのルールがなかったり、ルールがあっても守れなかったりしている中で、少しずつ、ゲームがやめられなくなって、ゲームへの依存が進んでいることが考えられませんか？ゲームの中での「死ね！」「殺せ！」といったような暴力的な言葉が日常化してしまったりはしていませんか？（多良小学校でのいじめアンケートの中でも、これまで、オンラインゲーム上での暴言や仲間外しなどが実際に挙げられていました。）



何より、毎日、ゲームの中で何百人、何千人という人を殺したり、傷つけたりしている行為を続けていることについて、「ゲームの中でのことだから」ということで割り切ることができるでしょうか。

そのような判断ができる大人であればともかく、まだそのような分別がつかない小学校低学年の時期から、そのような行為を続けている子どもが、そのまま大人になっていくことに心配はないでしょうか。

ゲーム依存が進むことで、周囲の人とのコミュニケーションが希薄になり、日常生活よりもゲームが優先されることにより、体力の低下、栄養失調などが進むなどして、引きこもりやうつ病などの原因にもなるそうです。最近、頻発している若者の事件についても、無関係とは思えないのが、私の正直な思いです。

多良小学校の子どもたちについては、今一度、ご家庭におかれましては、子どもさんのゲーム事情について、しっかりと把握した上で、子どもさんと話し合われてはいかがでしょうか。

学校としても、今後、実態を把握することや、何らかの対策を講じていくことについて、検討を進めていきたいと考えています。